

5000人快走 春満喫

路面電車と並走し、駆けるランナーたち。いずれも豊橋市で



第7回穂の国・豊橋ハーフマラソン

第7回穂の国・豊橋ハーフマラソン（豊橋市、豊橋市教委、東三河陸上競技協会、中日新聞社主催）が27日、豊橋市内で開かれた。午前10時の号砲とともに、春の装いを感じるまちへランナーが一斉に繰り出し、健脚を競った。

性別、年齢ごとの計8部門に、北は北海道、南は熊本県までの約5000人がエントリー。今年は年齢を細かく区切り、50〜59歳以下、60歳以上男子の部、30〜49歳以下、50〜59歳以下、60歳以上女子の部を設置。大会史上初となるインター



発行：中日新聞豊橋総局
豊橋市八町通4の52の1
0532(52)7181



ご購入申し込みは
お近くの中日新聞販売店
または
下記フリーダイヤルまで。
TEL 0120(45)4010

ネット上の動画配信サービス「ニコニコ生放送」によるライブ中継も実現した。コースは豊橋公園を発着点に、豊橋鉄道市内線の路面電車と並走し、牛川遊歩公園を通過して豊川沿いを駆け抜ける21・0975キロ。スタート前には豊丘高校和太鼓部が演奏を披露し、ランナーを勇気づけた。

号砲が鳴ると、詰めかけた家族や友人が熱のこもった声援を送った。ゲスト走者で、スポーツジャーナリストの増田明美さんもスタート地点で走り出したランナーを見守った。

大学生や地元有志ら約1700人がボランティアで交通整理や救護ポイントの運営に当たり、大会を支えた。

ゴール付近に設けられた応援ゾーンでは、地元の応援団やチャリダーらが集結し、選手のラストスパートを後押し。東三河のご当地グルメを売り出す屋台十数店も並び、完走したランナーを迎える。

第7回穂の国・豊橋ハーフマラソンを完走した地元ランナーの方のお名前は、中日新聞の4月1日付朝刊特集面に掲載させていただきます。



路面電車の脇を駆けるランナーたち

完走ランナー特集面で紹介

第7回穂の国・豊橋ハーフマラソンを完走した地元ランナーの方のお名前は、中日新聞の4月1日付朝刊特集面に掲載させていただきます。